

## アナログKVMスイッチ(8ポート)[PY-KVAA08]、(16ポート)[PY-KVAA16]

### (1) 概要

本装置は、1セットのモニター/キーボード/マウスを複数のサーバで共有するための切替器で、8台/16台のサーバを切り替えることができます。本装置をカスケード接続することにより、接続できるサーバ数を増やすことができ、最大構成は16ポートアナログKVMスイッチ17台で256台のサーバを切り替えることができます。

本装置は、外付装置またはラックの通常設置領域への搭載に加え、スタンダードラックの縦置設置領域への搭載が可能です。また、ラック・コンソール格納キット(PY-RC08)を別途手配することにより17インチラック・コンソール(PY-R1DP1)の背面に搭載できます。



図1 外観写真 (上段:8ポート、下段:16ポート)

### (2) 特長

#### ① PG 型名との相違点について

標準添付していたAC100Vケーブル(3m)1本をオプションで別手配することに変更しました。これにより、電源環境によっては不要となっていたケーブルを必要なケーブルのみを別手配することができます。

詳細については(3)仕様の添付品、(4)オプション関連およびシステム構成図を参照ください。

#### ② 17インチラック・コンソールへの搭載が可能

本装置1台を17インチラック・コンソール(PY-R1DP1)へ搭載することができます。(図4を参照)

搭載するためには、ラック・コンソール格納キット(PY-RC08)の別途手配が必要となります。

1Uのスペースで8台/16台のサーバ切り替え機能及びコンソール機能が実現でき、ラックスペースを有効に使用できます。

※ 旧フラットディスプレイ(PG-R1DPx/R2DPx)への背面搭載はできません。また、接続についても未サポートになります。

#### ③ スタンダードラックの縦置設置領域への搭載

スタンダードラックでは縦置設置領域に本装置を搭載することにより、通常のラックスペースを占有しないため、ラックの拡張性に貢献します。(図5を参照)

#### ④ ホットキー切り替え機能

本装置は、キーボードで接続サーバを切り替えます。(ホットキーによる切り替え)

ホットキー切り替え時は、OSD(On Screen Display)表示され接続サーバの電源投入状態が確認でき、上下カーソルキー、英数字キーにより接続サーバを選択し、Enterキーで切り替えることができます。

また、OSD表示された状態ではマウスによるサーバ選択、切り替えもできます。

#### ⑤ カスケード接続機能

本装置は、2段までのカスケード接続が可能ですので、将来のシステム規模拡大へ柔軟に対応できます。

なお、8ポートアナログKVMスイッチと16ポートアナログKVMスイッチの混在接続も可能ですので、接続サーバの台数にあわせた最適な構成を構築できます。

※ 従来モデルのKVMスイッチ(PG-SB10x/SB20x, PY-KVFA0x)との混在接続はできません。

⑥ ツイストペアケーブル(カテゴリ 5)による接続

本装置は、KVMアダプターケーブルとの接続にツイストペアケーブルを使用するため、ケーブル量を低減することができます。  
また、30m の長さまでのツイストペアケーブルをサポートします。

※ 従来モデルの KVM スイッチ(PG-SB10x/SB20x, PY-KVFA0x)用 KVM ケーブルを使用することはできません。

(3) 仕様

名称		アナログKVMスイッチ (8ポート)	アナログKVMスイッチ (16ポート)	(参考:従来モデル)
型名		PY-KVAA08	PY-KVAA16	PG-SBA108/SBA116
接続台数		8台	16台	8台/16台
カスケード接続		8ポートアナログKVMスイッチをプライマリとした場合: セカンダリに8台の16ポートアナログKVMスイッチを接続時が最大構成で128台のサーバが接続可能 16ポートアナログKVMスイッチをプライマリとした場合: セカンダリに16台の16ポートアナログKVMスイッチを接続時が最大構成で256台のサーバが接続可能		←
サーバとの インターフェース仕様		・アナログRGB ・PS/2キーボード/マウス インターフェース(OADG準拠) または USB 1.1準拠(Full Speed対応、HIDコンポジットデバイス)		←
接続 コネク タ 詳細は 図2を 参照	ローカル ポート	モニター:VGA D-Sub15Pin メス x1 キーボード:PS/2 ミニDIN 6Pinメス x1、USB Aタイプ x1 マウス:PS/2 ミニDIN 6Pinメス x1、USB Aタイプ x1		←
	サーバ ポート	RJ45 メス x8	RJ45 メス x16	RJ45 メス x8/x16
ホットキー切り替え		Ctrlキー2回連続押下、Shiftキー2回連続押下、Altキー2回連続押下、または、Print Screenキー押下でOSDメニューが表示され、Look & Feelでキーボード・マウスによる切り替えが可能。		←
オートスキャン		スキャンリストで選択されているサーバを一定間隔で自動的に切り替えることが可能。切り替え周期は3~255秒の範囲で変更可能。(最大で100台まで選択可能)		←
表示およびボタン		なし(表示及び切り替は、OSDにより行います)		←
VCCI		クラスA		←
質量		約1.9kg		←
外形寸法 (WxDxH)		431.8 mmx165.1 mmx43.7 mm (Hにゴム足約3.5mm含まず)		←
入力電源		AC 100-240V、単相、50/60Hz		←
消費電流		AC 100-240V、0.5A		←
消費電力		最大8.5 W		←
添付品		保証書 1部 Manual CD 1枚 はじめにお読みください 1部 安全上のご注意 1部 Quick Installation Guide 1部 ゴム足 4個(外付使用時) Rack Mount Kit(金具 2個、金具取り付けネジ[8-32x3/8inch] 4本) ラック取り付け用ネジ(M5x12) 4本 ケージナット(M5) 4個		←に加え、100V電源ケーブル(3m) 1本



図2 装置背面図 (上段 : 8ポート、下段 : 16ポート)



図3 装置正面図 ( 上段:8ポート、下段:16ポート)



図4 本装置を17インチ ラック・コンソール(RC25)に搭載時の外観写真

注)17インチ ラック・コンソール(RC25)[PY-R1DP1]への搭載にはラック・コンソール格納キット[PY-RC08]の別途手配が必要となります。

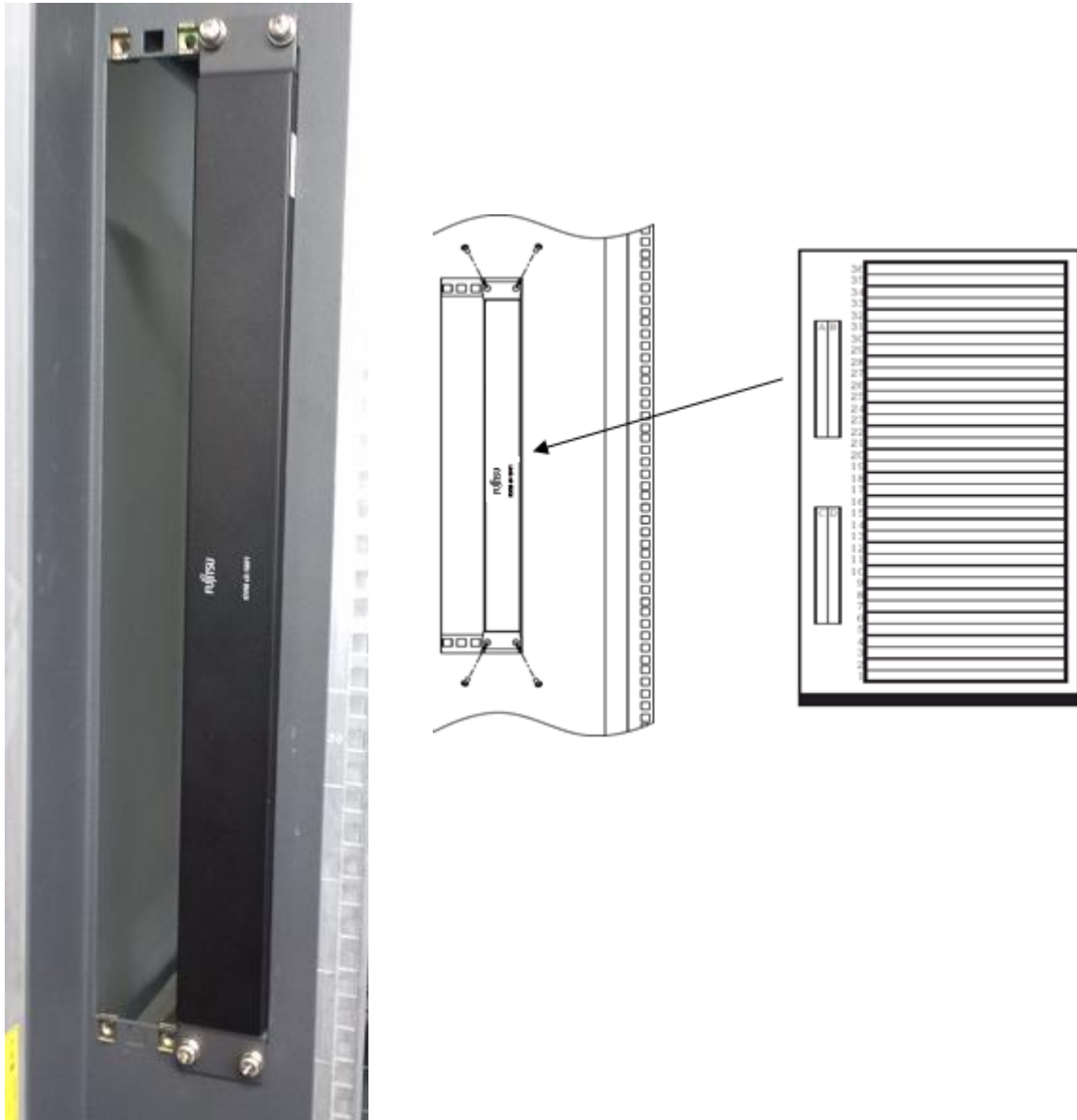


図5 ラック縦設置領域への搭載写真と取り付け概要

(4) オプション関連 (別途手配品)

名称	型名	仕様・適用		(従来モデル)
		アナログKVMスイッチ (8ポート) [PY-KVAA08]	アナログKVMスイッチ (16ポート) [PY-KVAA16]	PG-SBA108/S BA116
KVMアダプター ケーブル (PS/2) 図6を参照	PY-CBKAP01	本装置とサーバ本体(PS/2インターフェース)を接続するために必要な専用KVMアダプターケーブル(接続サーバ台数分必要) また、本装置同士をカスケード接続する場合、本アダプターケーブルの使用が必須となります。 ※ツイストペアケーブルは、アダプターケーブル本数分必要です。 ※カスケード接続時は、接続サーバ本数に加えカスケード接続用のケーブル本数が必要となります。 例:本装置1台で 8台のサーバを接続 → 8本(8+0)必要 本装置3台で20台のサーバを接続 → 22本(20+2)必要		PG-CBLPA1
KVMアダプター ケーブル (USB) 図7を参照	PY-CBKAU01	本装置とサーバ本体(USBインターフェース)を接続するために必要な専用KVMアダプターケーブル(接続サーバ台数分必要) ※ツイストペアケーブルは、アダプターケーブル本数分必要です。 ※カスケード接続には使用できません。		PG-CBLUA1
KVMケーブル (USB) 図8,9を参照 ※2016年9月30 日販売終息予定	PY-CBKCU04 PY-CBKCU05	本装置とサーバ本体(USBインターフェース)を接続するために必要な専用KVMケーブル(接続サーバ台数分必要) ケーブル長はPY-CBKCU04が2.1m,PY-CBKCU05が3mの固定となります。 ※ツイストペアケーブル一体のため、追加手配は不要です。 ※カスケード接続には使用できません。		PG-CBLUD2 PG-CBLUD3
ツイストペア ケーブル(カテ ゴリ5)	TPCBL-B005 TPCBL-B010 TPCBL-B015 TPCBL-B030	KVMアダプターケーブル1本につき、1本必要。  ※30m以下のケーブルのみ使用可能です。		←
ラック・コンソ ール格納キット	PY-RC08	17インチ ラック・コンソール(PY-R1DP1)の背面に搭載するためのキット。 取り付け金具5個、金具取り付けネジ、ケーブル(VGA×1本、USB×1本)から構成されます。		PG-R1CK30
電源ケーブル	PY-CBP102 PY-CBP103 PY-CBP104 PY-CBP105	100V対応電源ケーブル(NEMA 5-15P準拠)プラグ。 ケーブル長は、上から3m/0.5m/1m/1.5m。		100V 対応 3m 標 準添付
電源ケーブル	PY-CBP201	AC200V対応電源ケーブル(NEMA L6-15) 丸型プラグ。UPSに接続可。 ケーブル長は3m。		PG-CBLPU04
電源ケーブル	PY-CBP202 PY-CBP203 PY-CBP204 PY-CBP205	IAC200V対応電源ケーブル(EC603200-C14) PDU接続用。UPSとの接続は未サポート。 ケーブル長は、上から3m/0.5m/1m/1.5m。		PG-CBLPU05



図 6 KVM アダプターケーブル(PS/2)



図 7 KVM アダプターケーブル(USB)



図 8 KVM ケーブル(USB)2.1m



図 9 KVM ケーブル(USB)3m

## (5) 規格の取得状況

安全規格	IEC 60950-1(ed.2), UL60950, CSA60950
電気用品安全法	対象外(オプション電源ケーブルに関しては適合品を採用)
電波規格	VCCI クラス A
RoHS 指令	本製品は EU RoHS 指令 適用除外の 7(b)(*)を利用しています。 7(b)は 2016 年 7 月 21 日を以て除外の猶予が満期となりましたので 2016 年 7 月 22 日以降、EU RoHS 指令に対応していません。 7 月 22 日以降に納品する場合は、以下の点を厳守いただくようお願い いたします。 お客様がご購入された地域/場所(日本国内)から、他国への持ち出し/移送は できません。
J-MOSS (日本版 RoHS)	対象外
グリーン購入法	対象外



### (6) 接続形態

接続形態は図 10 を参照ください。

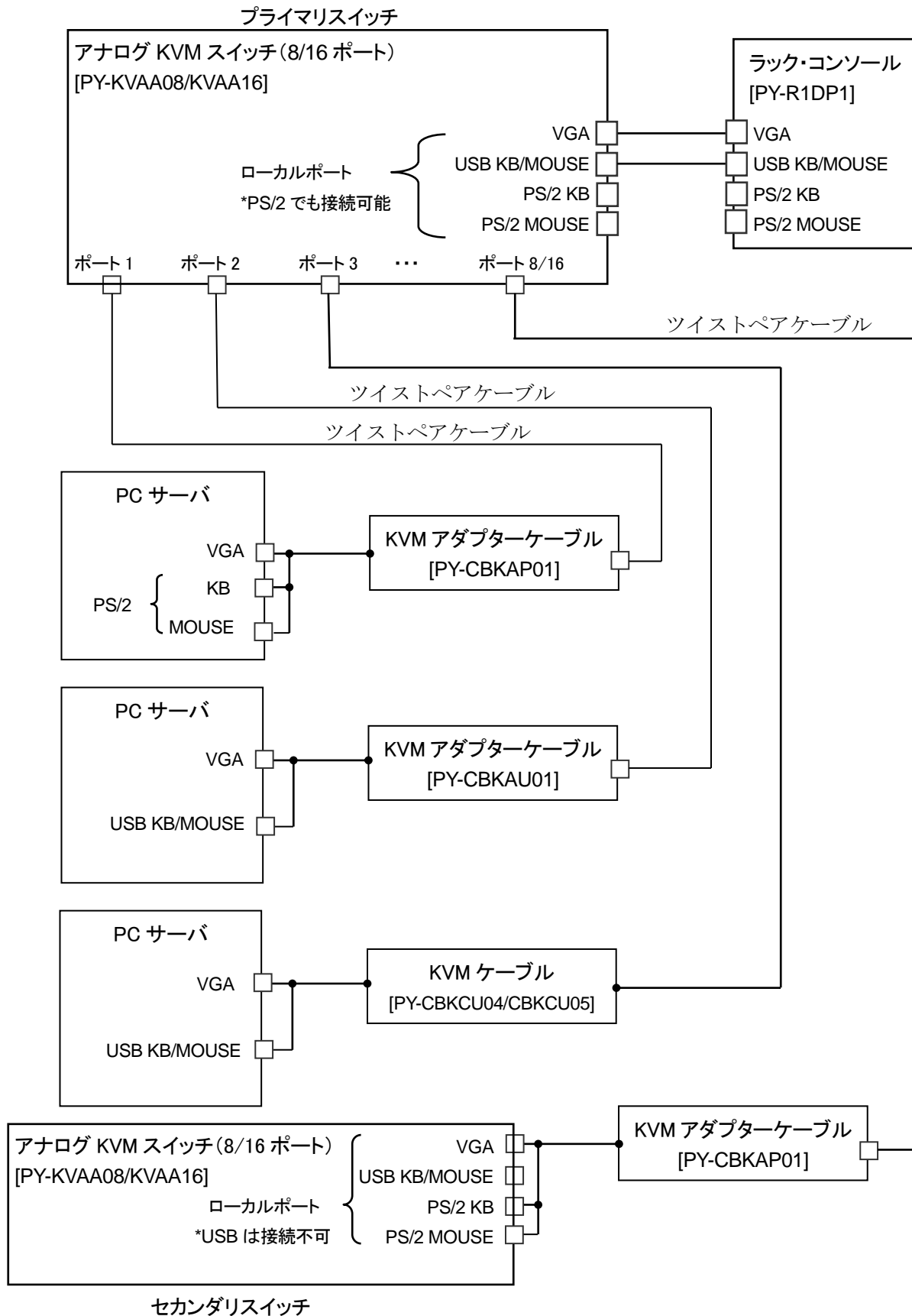






図 10 接続形態図

(7) 留意事項

① 旧 KVM ケーブル(PG-CBLDPxx)および KVM ケーブル(PY-CBKCP01~03/PY-CBKCU01~03)はすべて使用できません。

② KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルの識別について

名称	型名	ラベル表示
KVMアダプターケーブル (PS/2) 図6を参照	PY-CBKAP01	MPN:520-326-509/510/511 
KVMアダプターケーブル (USB) 図7を参照	PY-CBKAU01	MPN:520-917-501 
KVMケーブル(USB) 図8を参照	PY-CBKCU04	MPN:520-649-501 
KVM ケーブル(USB) 図 9 を参照	PY-CBKCU05	MPN:520-649-502 

### ③ KVM スイッチの交換について

ローカルポートのLCD、PS/2 キーボード、PS/2 マウスについては、本装置の電源切断後に取り外します。それ以外については本装置が電源投入状態でも取り外し可能です。

KVM スイッチ交換後、各種設定が必要になります。サーバ名称については KVM アダプターケーブルまたは KVM ケーブルに情報が保持されるので引き継がれますが、KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルが接続されているサーバポートの順番が変わると表示順番も変わります。

また、カスケード接続された KVM スイッチ(セカンダリスイッチ)を交換する場合も、サーバ名称はカスケード接続用 KVM ケーブルに保持されるので引き継がれますが、KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルが接続されているサーバポートの順番が変わるとサーバ名称も変わるため、交換前にセカンダリスイッチと KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルが接続されているサーバポートを記録し、交換後に復元できるようにすることを推奨します。

### ④ KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルの交換について

本装置側のサーバポートについては、本装置の電源投入状態でも取り外し可能です。

KVM アダプターケーブル(PS/2)については、サーバ本体の電源切断後に取り外します。

KVM アダプターケーブル(USB)、KVM ケーブル(USB)については、サーバ本体が電源投入状態でも USB コネクタは取り外しができますが、ビデオコネクタはサーバ本体の電源切断後に取り外します。

プライマリスイッチに接続されている KVM アダプターケーブル、KVM ケーブルについては交換後、サーバ名称の再設定が必要になります。

なお、カスケード接続用のケーブルについては交換後、セカンダリスイッチの全サーバポートのサーバ名称を再設定する必要があります。通常運用時からセカンダリスイッチの全サーバポートのサーバ名称を必要に応じて控えておき、万一交換発生時に復元できるようにすることを推奨します。

また、セカンダリスイッチに接続されている KVM アダプターケーブル、KVM ケーブルについては交換後、サーバ名称の再設定が不要です。

### ⑤ KVM アダプターケーブルには必ずツイストペアケーブルの手配が必要になります。KVM ケーブルについては、ツイストペアケーブル一体のため、手配不要です。

### ⑥ カスケード接続用のケーブルは、KVM アダプターケーブル(PS/2)[PY-CBKAP01]のみ使用できます。

### ⑦ 本装置同士[PY-KVAA08/KVAA16, PG-SBA108/SBA116]のカスケード接続以外は未サポートです。従来モデルの KVM スイッチ(PG-SB10x/SB20x, PY-KVFA04/KVFA08)との混在接続はできません。

### ⑧ カスケード接続した場合には、スレーブ側のポート数を設定する必要があります。OSD メニューを表示し Setup→Devices でカスケード接続された KVM スイッチを選択し、Modify ボタンでポート数を設定します。

### ⑨ KVM スイッチのラック搭載について

ラックの通常設置領域への搭載(水平方向)は、背面のみの搭載になります。(前面への搭載はできません。)

### ⑩ 本装置は画面表示の自動調整機能がありません。表示位置がずれた場合は表示装置の自動調整で表示位置を調整してご使用ください。

### ⑪ カスケード接続されたポートについては、全ポートが表示され、未接続時でもクリアボタンで表示を削除できません。

## ⑫ 未サポート機能について

- OBWI(On Board Web Interface) およびフラッシュ・アップグレードを含むネットワーク接続 (ただし、OBWIによるファームウェア版数確認とファームウェアアップデート機能は使用可能です)
- SETUP ポートを含むシリアル接続

## ⑬ 本装置には電源スイッチがありません。電源ケーブルの接続・取り外しによって本装置の電源投入・切断を実施します。なお、背面の電源 LED は、電源ケーブルの接続から約5秒後に点灯します。

## ⑭ 本装置にはリセットスイッチがありません。

## ⑮ OSD 表示でサーバ名などを変更・登録する際に、キーボードは US 配列として動作します。

## ⑯ BX920 S3/BX924 S3/BX920 S4/BX924 S4 への接続について

KVM ケーブル(USB)[PY-CBKC04/CBKC05]を使用して BX920 S3/BX924 S3/BX920 S4/BX924 S4 に接続することはできません。

BX920 S3/BX924 S3/BX920 S4/BX924 S4 に接続する際は、KVM アダプターケーブル(USB)[PY-CBKAU01]をご使用ください。

## ⑰ システム構成図(外付編)の KVM スイッチ使用時の留意事項について

PRIMERGY(旧サーバ)とKVMスイッチの接続可否に関する表で×非サポートと記載されている組み合わせは、基本的には評価が未実施のためです。

以上